

10月27日（木）の会礼ー「校長先生の話」ーより

「一人も一人にしない学校

命と言葉を大切にする長野っ子」

10月も下旬になりました。すでに28年度、つまり今の学年の半分以上が過ぎました。

さて、入学式や1学期の始業式でみなさんに話をしましたが、今年の長野小学校はどんな学校、どんな長野っ子を目指していましたか。思い出してください。

長野小学校は、「一人も一人にしない学校」を目指しています。

みなさんには「命と言葉を大切にする長野っ子」であって欲しいと願っています。

「一人も一人にしない学校」ってどのような学校ですか。私は、いじめや無視・差別・からかいなどがなく、誰もが明るく安心して「今日もがんばろう」という気持ちで、毎日を送ることができる学校だと考えています。

「命と言葉を大切にする長野っ子」の「命を大切にする」ってどういうことですか。命は生きている証です。「生きていて良かった。これからもいいことあるぞ。明日が楽しみだ。」そのような前向きな思いを、自分もそして周りの人ももてることが「命を大切にする」ことだと考えます。

「言葉を大切にする」ってどういうことですか。人は自分の思いを言葉として伝えます。その言葉から温かさを感じたり、逆に、冷たさを感じたりと、その言葉を聞き取るのは相手です。つまり、自分の思いとは違って伝わってしまうこともあるんです。

ケガなど身体にできた傷は、薬や自分の力で治すことができますが、言葉や行動・態度によってつけられてしまった心の傷は、なかなか治りません。

今日、このような話をするのは二つのことからです。

一つ目は、去る8月25日、青森県で中学校2年生が列車に飛び込み自殺をした、ということがありました。みなさんにいじめと命について考えてもらいたいからです。この事件は、お祭りの写真の公開をめぐってニュースになったので知っている人もいられるでしょう。自殺の原因は一年以上にわたるすごくひどいいじめでした。スマホのLINEに残された遺書には、いじめをした女子生徒の名前と両親への謝罪の言葉、そして「もういじめたりしないでください」という本人の願いが残されていました。本

当に悲しい事件でした。

もう一つは、このごろ長野小のいろいろな学年から「からかわれた」「無視された」「たたかれた」など、命や言葉を大切にしていない言動があることを何回か耳にしたからです。言っている・やっている人は感じていないようですが、言われている・やられている人は、心が折れかかっています。また、「死ね」「殺す」という言葉が普通の言葉のように使われてしまっていることを、私は悲しく思っているからです。冗談でも使って欲しくない言葉です。ましてや、心が折れかかっている人が言われたら…。

みなさんをお願いします。

ここにいる376人が、「学校楽しいな！ よし、今日もがんばろう！」という思いで学校生活を送ることができるよう、今一度自分の行動・言葉を振り返ってください。また、悩んでいることがあったら、先生にそっと相談してください。この子、かわいそうだなっていう場面を見たら、先生に教えてください。

今日からもう一度、

「一人も一人にしない学校」

「命と言葉を大切にする長野っ子」

をみなさんと先生方とで作っていきましょう。